



今日の表紙 日光けっこうフェスティバル2011



10月8日(土)に日光運動公園で行われた、恒例の日光けっこうフェスティバル。爽やかな秋晴れとなった会場に、食べ物や飲み物を販売するブースや農産物直売、フリーマーケットなどのテントが所狭しと並びました。直径2メートルの大鍋で約3,000食分の芋煮を作る関東一芋煮会には、多くの人が列をつくり、出来たての芋煮をおいしそうに頬張っていました。

また日光下駄飛ばし選手権大会には、豪華商品を狙って老若男女を問わずたくさんの方が参加。初めて履く下駄に悪戦苦闘しながらも、力いっぱい足を蹴り上げていました。親子で参加した光永さん(東京都)は、「初めて参加しましたが、とても難しかったです。また来年参加したいです」と笑顔で話してくれました。

その他にも足尾銅太鼓や韓国伝統芸能演奏の披露、海賊戦隊ゴーカイジャーショーなどが行われ、会場を訪れた皆さんは心ゆくまで秋のイベントを楽しんでいました。



9月25日(日)、中三依のみよりふるさと広場で山のもの何でもござるまつりが開催されました。特設ステージでは、そばの早食いリレー競争や、三依獅子舞などが行われました。ミニ炭俵作りなどの体験コーナーもあり、参加した塩生さん(平ヶ崎)は、「昔、父が炭俵を作っていたことを思い出して、懐かしい気持ちで参加しました」と笑顔で話してくれました。



なかみより山のもの何でもござるまつり



日光秋の花火

10月8日(土)の午後7時から、日光地域の大谷川河畔で、「絆」いつも一緒をメインテーマにした日光秋の花火が開催されました。この日、澄み切った秋の夜空に江戸花火の「宗家花火鍵屋」が打ち上げたのは約2,500発。家族連れなど会場を訪れた人たちは、花火と音楽を調和させた音と光の幻想的なショーに、大きな拍手と歓声を上げていました。



月あかり花回廊

9月23日(金・祝)と10月2日(日)に、鬼怒川・川治の両温泉街で開催された月あかり花回廊。このイベントは、温泉街を訪れる方のために、さまざまな「あかり」で癒しを演出するイベントです。鬼怒川温泉のメイン会場となった鬼怒川公園では、生け花や竹工芸、チエーンソーアートなどの作家が制作したあかりや、地元の子



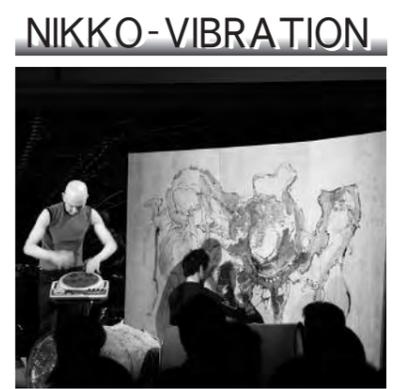
どもたちなどが制作した行灯による淡い照明の中、抹茶のおもてなしや琴・オカリナ・ライアー・しの笛・ケーナ・フルートの日替わりコンサートなど、数々のイベントが行われました。友人と訪れた女性は、「幻想的でとてもきれいでした。来年も来たいです」と話してくれました。



市営ホッケー場オープン記念式典 & 女子ホッケー日本リーグ

9月24日(土)、今市青少年スポーツセンターでホッケー場オープン記念式典が行われました。市内にはこれまで市営のホッケー専用競技場はなく、同センターの人工芝競技場が1面あるのみでした。今回整備した施設は、公認11人制人工芝コート1面(8,892㎡)や屋根付きスタンド、夜間照明施設、管理棟など。

日本代表選手を輩出した「ホッケーのまち」として、ホッケーのさらなる普及や競技力の向上、全国規模の大会誘致が期待されます。式典後、高円宮牌2011女子ホッケー日本リーグの試合が行われ、第1試合で地元グラクソ・スミスクラインが南都銀行と対戦。両チーム応援団の熱い声援が、澄みきった青空に響いていました。



NIKKO-VIBRATION

10月1日(土)、小杉放菴記念日光美術館でNIKKO-VIBRATIONが行われました。この公演は、重金属打楽器奏者のスティーヴエトウ氏と和太鼓ユニット樹神による力強い打楽器演奏の中で、市内在住作家香川大介氏が1枚の絵画を仕上げるといふものです。香川氏の作品は約1時間30分で完成。打楽器演奏との融合に観客から大きな拍手が送られました。



アジアリーグアイスホッケー 日光シリーズ開幕戦

9月24日(土)、霧降アイスアリーナで、アジアリーグアイスホッケー日光シリーズ開幕戦が行われました。HC栃木日光アイスバックス(以下、バックス)は東北フリーブレイズと対戦。これまでリーグ2連勝と波に乗るバックスは、開始わずか25秒でFWソーン・ドンファン選手がシュートを決め、その約2分後にも得点。これで会場に詰め掛けたファンの熱気は一気に盛り上がりました。その後もFW上野選手の連続ゴールなど、第1ピリオド終了時点で5対0と大きくリード。第2、3ピリオドで得点を許したものの、終わってみれば10対4の快勝でした。見事ホームゲーム初戦を制し、これでリーグ3連勝。観客は大興奮、大満足の会場を後にしました。